

## ジャンボタニシ被害対策 ～春夏編～

にしみの管内にて毎年ジャンボタニシ被害が多発しています！  
水田に侵入させない + 増殖させないための対策が必要です！

### 1 圃場への侵入を防ぎましょう

- ジャンボタニシは用水路等で越冬します。田んぼの入水とともにジャンボタニシも圃場へ侵入するため、水路（特に排水路）との出入口に9mm目合い程度の網を設置しましょう。

### 2 卵塊の除去を行いましょ

- ジャンボタニシの卵塊は、鮮やかなピンク色が特徴です。
- 卵塊は水中では孵化することができないため、見つけ次第水中に落として駆除しましょう。
- 孵化直前の黒色～白色の卵塊は水中でも孵化ができるため、圃場外に持ち出するか、潰して駆除しましょう。

⚠ 卵塊には毒があるため素手で触らない！！



水深が深い箇所が食害を受けた圃場

### 3 浅水管理で活動を抑制しましょ

- 水深が浅いとジャンボタニシの活動が抑えられるため、ジャンボタニシが発生した場合は、水深が1～3cmになるように管理しましょう。
- ただし田面が露出すると雑草が発生しやすくなるので、細かい水管理が必要です。



### 4 農薬を活用して駆除しましょ

- 被害が大きい圃場や、毎年ジャンボタニシが多発生する圃場では、農薬の散布が効果的です。
- 多発生している場合は、最大使用量の4kg/10a使用が効果的です。



【推奨薬剤】スクミノン（2kg、10kg規格）

農薬名	使用量(/10a)	使用時期	使用回数	使用方法
スクミノン	1～4kg	収穫60日前まで	2回以内	散布又は無人航空機による散布

## 水稲の藻類対策 ～田植後～

水田に発生する藻類は気温の上昇により繁殖力が上昇します。アオミドロは平均水温18～25℃、アミミドロは平均水温22～25℃が最も繁殖しやすく、田植時期の気温の上昇により、水田圃場での藻の発生リスクが高まっています。藻が発生すると、藻の吹き寄せによる倒伏や浮き苗、水温・地温の低下による生育抑制、株元に絡みつ়くことによる分けつ妨害などの影響が生じます。

### 1 水の入れ替えにより藻類を流しましょ

### 2 農薬を活用して除草しましょ

モゲトン粒剤やモゲトンジャンボの施用が効果的です。藻やウキクサを枯らす除草剤です。藻が繁茂している水田では、ジャンボ剤は拡散が不十分になる場合がありますので、モゲトン粒剤を施用しましょう。



モゲトン散布時



モゲトン散布後

